

地域づくり提案事業 成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度

26 年度

市町村名	小鹿野町					
提案事業名	小鹿野魅力再発見事業					
事業期間	平成24年度 ~ 平成24年度					
成果指標	(成果を検証する指標) 観光入込客数					
	(成果検証の具体的な方法) 観光施設の入館者や行祭事、ハイキング・登山客など町を訪れる全体の入込観光客数					
	(成果の目標値に対する実績)				達成度	A
	従前値 (22年1月~12月 時点)	227,366	目標値 (24年1月~12月 時点)	250,000	実績値 (24年1月~12月 時点)	253,259
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)		稼働率 (%)	(目標) (実績)	
住民への公表状況 及び特記事項		町広報及びホームページに掲載して公表する				

【事業効果の整理・原因分析】

平成24年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 小鹿野町魅力再発見ルート開発講座	○	小鹿野町を代表するような観光スポットだけでなく、ジオサイトや宮沢賢治、小鹿野の中心市街地に残る明治～昭和初期にかけての建物や歴史ある商家を巡る小鹿野中心市街地案内コースを新たに作成した。普段の観光では決して通ることの出来ないルートであり、たいへん好評である。また、案内人の知識向上のための講座を開講し、参加者に小鹿野町の新たな魅力を十分に伝えることができた。
② 尾ノ内溪谷ポスター・チラシ作成事業	○	尾ノ内溪谷は、冬季に実施する氷柱には多くの観光客が訪れている。それ以外の四季折々の見所やトレッキングルートを紹介するチラシを作成し、新緑まつり等のイベント実施をPRしたり、年間を通した楽しみ方を提案することができた。 こうしたことにより、尾ノ内溪谷を訪れる観光客も増加したものである。
③ 観光トイレ設置事業	○	観光地である伊豆沢の汲み取り式のトイレを水洗式に整備した。また、尾ノ内溪谷のトイレが訪れた観光客の人数に対応しきれていなかったため、溪谷入口に所在する龍頭神社に水洗式トイレを整備した。 これらが整備できたことにより、観光来訪者等の利便性と衛生面の向上を図ることができた。

【成果検証の総括・改善策の検討】

<p>実施事業について 十分に成果が認められた点</p>	<p>新たな観光ルートを提案し、案内人の質も向上したことにより利用者の満足度を上げることができた。また、チラシによって効果的に観光地のPRを行うことができ、トイレを整備したことで増加した観光客に対応する利便性と衛生面の向上を図ることができた。 こうしたことにより、総じて観光入込客数の増加につなげることができた。</p>
<p>実施事業について 成果が不十分である点</p>	<p>チラシによるPRは町に訪れた観光客向けであり、町を訪れたことのない方に興味を持ってもらえるような積極的なPRを行うことができなかった。また、里山案内の認知度があまり高くないこともあるので、今後さらに情報発信していく必要がある。</p>
<p>成果検証を踏まえた 今後の改善策</p>	<p>小鹿野町のホームページや様々なPR活動によってさらに効果的に観光情報や小鹿野町の魅力を発信する。また、新たな観光資源の掘り起こしや観光エリアやジオパーク関連施設、食などを連携させた事業展開等に努めていくものである。新たに設置したトイレの維持管理を適正に行うとともに観光地等の環境美化にも配慮し、観光来訪者に心地のいい環境の提供に努めていく。</p>

(記入上の注意)

【成果指標の達成状況】

・達成度(A・B・C)の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」 目標値に対する実績値の伸び率が80%以上の場合

$$\text{実績値} \geq (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度B」 目標値に対する実績値の伸び率が60%以上80%未満の場合

$$(\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値} \leq \text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度C」 目標値に対する実績値の伸び率が60%未満の場合

$$\text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値}$$

【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果(O・△・×)の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果O」 事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果△」 事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」 事業効果の発現がほとんど認められない